



大阪部会(第3回)

日 時: 2007年9月30日(日)17:30~19:30

場 所: 阪急ターミナルスクエア 17

【内容要旨】

(1) 第3回目の部会は13名の参加者で開催された。まず前半は、藤井宏樹先生(同志社香里中高等学校)から、起業家教育の意義についての報告があった。

(2) まず初めに、各種団体が実施している起業家教育、経済教育、金融教育、キャリア教育などの目的や問題意識について整理され一覧表にして示された。それによると、「自主・自立心、自己責任意識」がすべての教育に共通してみられる目的に挙げられていることが分かる。続いて、高校3年生の選択科目「経済特論」で実施された「宅配便から社会を見る」と、中学1年生の「地理」で実施された「海外旅行の企画を売り込もう!」についての紹介があった。

前者の授業では、社会の変化を読み取ることを主眼に置いて、ビデオ鑑賞や宅配便関係者の講演を織り交ぜながら、さらには、コンピュータソフトを利用したシミュレーションによるゲームを行なうことによって、生徒たちに起業についての擬似体験をさせることであった。そして、起業に関わる「多様な視点に気づかせる」ために、マークシートで多くの項目について振り返りさせながら、仮説一検証を通じて意思決定の重要性を学習させることの大切さを強調された。

後者の授業では、まず夏休みの宿題として海外旅行の企画書とポスターの作成を課すことから始められた。そして、夏休み明けに、プレゼンテーションの予選大会や文化祭において企画書の候補を絞ることにされた。その後、選ばれた企画書に基づき会社を立ち上げ、求人や企画の売り込みなどについての学習や、現地の人たちの話を聞く機会を設けられた。このようなプロセスを経て、最終のプレゼンテーション大会で生徒・教師・旅行社の担当者による評価が行なわれた。この授業の狙いは、丸暗記になりがちな世界地理分野の学習を生徒主体の学習形態に変えることにあった。また、生徒が選んだ国や地域の地理・歴史・暮らしなどを調べる効果もある。

報告されたこれらの授業は、生徒の学習意欲を掻き立てる意味では、非常に注目すべき興味のある取り組みである。ただ、このような取り組みを実施するには十分な授業時間を確保する必要があり、進学校では入試に対応するのが最優先事項になり実現が難しいという意見もあった。

(3) 後半は、篠原総一先生(同志社大学)から「経済教育ネットワーク」を立ち上げた理由の説明があった。その後、部会参加者から「経済教育ネットワーク」に対する要望が出された。たとえば、中学や高校の教員を対象にした経済についての研修。教科書の各単元についての要約の提供などである。

(文責:西村理)